

## 2013 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	環境設備に関する学会規準 (AIJES) における性能レベル小委員会	主 査 名 : 岡 建雄 就任年月 : 2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)	委員長名 : 田辺 新一 主 査 名 : 郡 公子
設 置 期 間	2013 年 4 月 ~ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	1. 2013 年度 : 建物の設計データを性能評価に当てはめて、評価方法の妥当性を検討し、実用的な評価方法を検討する。 2. 2014 年度 : 設計資料を建物規模別に整備し、実用に供せられるようにする。建物の環境性能評価を可能にする計算体系を整備する。	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無 : 無 後藤謙一 (後藤デザインシステムズ)、森川元樹 (森川設計)、相曾一浩 (矢崎エネルギーシステム)、石川幸雄 (三重大学)、伊藤宏之 (テクノビジョン)、落合弘文 (高砂熱学工業)、佐野邦彦 (建築環境・設備ネットオフィス)、時田繁 (公共建築協会)、中島康孝 (建築環境・設備技術情報センター)、福田全志 (カンキョウエンジニアリング)、米山浩一 (石本建築事務所)	
設置 WG (WG 名 : 目的)	ソーラー建築情報WG 目的 : ソーラー技術に関して実際の設計に役立てるために適正な判断基準を整える	
2013 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無 : 無 委員会 HP アドレス :

項 目	自己評価
委員会開催数	10 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 2013 年度 70% 実際の建物のデータを使用して環境性能を評価し、その結果に基づいて、今後の研究計画を検討した。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 最終目標の設定と目標達成のプロセスに齟齬が生じている。 2. 委員の職場環境が変化して、委員会に出られる機会の少ない委員がいる。

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2013年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>B</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本委員会では目標設定が環境性能評価だけに集約されていたが、実建物のデータを使用して検討すると、設計者が数値の意味すらつかめなくなってしまうことが明らかとなり、大幅な内容の変更が必要となってきた。</li> <li>2. 設計段階では建設費、運用コスト等がある程度示されないと、設計者も施主も判断がつかないために、簡略に設備システム、機器等を決定できるように、建設費、運用コスト等を計算するプロセスを追加するようにした。この計算体系と手法を検討するのに時間が掛かった。</li> <li>3. 今まで委員会で検討してきた内容の多くが、環境性能を十分に反映していないことも明らかになり、単純化して、性能評価を行うように資料を再構築している。特に機器に関しては新しい機器が毎年のように販売されてきており、従前の資料では不十分であり、改訂している。</li> <li>4. 実際の設計、評価プロセスに合わせた環境性能評価としたい。</li> </ol>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。